



■シニア空手道選手権大会 第8回・9回シニアの部 優勝

古川 幹夫

今62歳10ヶ月の私が空手大会に出場できる事は、大変嬉しく大会関係者の方々に感謝を申し上げます。

さて、私が第1回大会に出場したのは42歳の時です。中年になっても空手大会が開催されると言うので単純な喜びで出場しましたが、試合の結果は惨々たる内容でございました事が思い出されます。

その後も継続して大会が開催されましたので、空手の稽古に励みながら出場しましたが、なかなか良い結果は残せませんでした。それでも第8回と第9回大会に於いて優勝を出来たのは、道場の仲間達の協力と応援があったからこそと思っています。

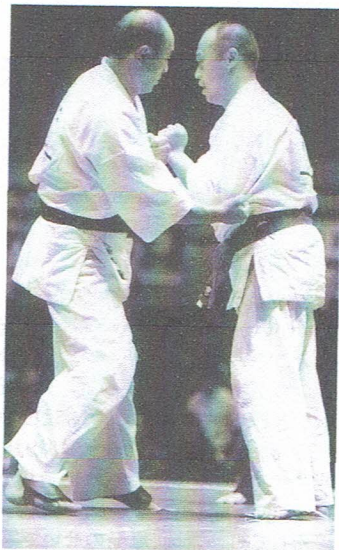
これからも身体と相談しながら稽古をして闘争心がある内は出場が許されるのであれば空手大会に出たいと思っています。 押忍



極真魂'01 vol.11より
第8回シニアの部 決勝戦



極真魂'02 vol.11より
第9回シニアの部 表彰式



極真魂'02 11月号より
第9回シニアの部 決勝戦



■シニア空手道選手権大会 第12回シニアの部・第15回グランドシニアの部 優勝

篠崎 弘之

第30回オープントーナメント東北空手道選手権大会・第20回シニア空手道選手権大会が開催されますことにお祝い申し上げますとともに感謝を申し上げます。

私が、初めて東北大会に参加させていただいたのは10年前の第20回シニア大会、年齢も51歳の時でした。当初は、一度だけ出場するつもりでしたが、この時の一回戦の対戦相手が2年間シニア優勝者の古川幹夫さんで、結果は延長で判定負けでした。この時古川さんから「また来年も出ましょう。」と声を

掛けられ、以来勝手にライバルと決め「打倒古川」を目標に掲げて大会に臨みました。そして6年後の平成20年にはグランドシニア部門を設けていただき、夢であった古川さんと決勝戦で再戦し勝利することができたのです。

私にとって正に、三瓶先生のモットーである「百事如意」を実現できた瞬間でした。

今年で連続11年出場となりますが、何故私が東北大会にこれ程の魅力を感じているのかと言いますと、憧れであった三瓶先生から他流派の私にも気軽に声を掛けてくださる等ご配慮にあずかり、同様に高橋大会実行委員長を始め各審判の先生方、各選手の方々とも交流させていただきその人間性に惹かれ、また大会の雰囲気が好きで連続出場しています。

東北大会は、長年に亘り子供から成人、そして壮年にまで日頃の修練の成果が発揮できる場であり、空手を続けている者に希望と勇気を与えていることに間違いはありません。

私は、その大会に参加できることを誇りに思い、そして大変喜びを感じています。

最後に、三瓶道場の更なるご発展と本大会のご成功を祈念申し上げます。

三瓶先生有難うございます。



空手LIFE '09. Jan
No.18より
第15回グランドシニアの部
表彰式



極真魂'05 12月号より
第12回シニアの部 表彰式